

① 2018年末の大掃除実施率と掃除の理由

- ・大掃除実施率は55.9%。15年前より6.6%減少、調査開始以来3番目に低い結果に。
- ・大掃除理由を「毎年の恒例」と回答する人は15年前より8%減少。習慣意識は薄れつつある傾向。

『ダスキン 大掃除に関する意識・実態調査』は、2005年（2004年末の大掃除が対象）から調査を開始し、今回で15回目を迎えました。

15年間の大掃除実態の変化をみると、**2018年末の大掃除実施率は55.9%**と15年前（2004年末の大掃除）と比べて6.6%減少し、**調査開始以来3番目に低い実施率**でした。さらに、最も実施率が高かった2008年末と比較すると15.8%も減少しています。

また、大掃除をした理由は「気持ちよく新年を迎えたい」が15年前も同様に1位ですが、**「毎年恒例の習慣だから」は15年前より8%減少しており、習慣の意識は薄くなりつつある**ことがうかがえます。

図1：大掃除実施率

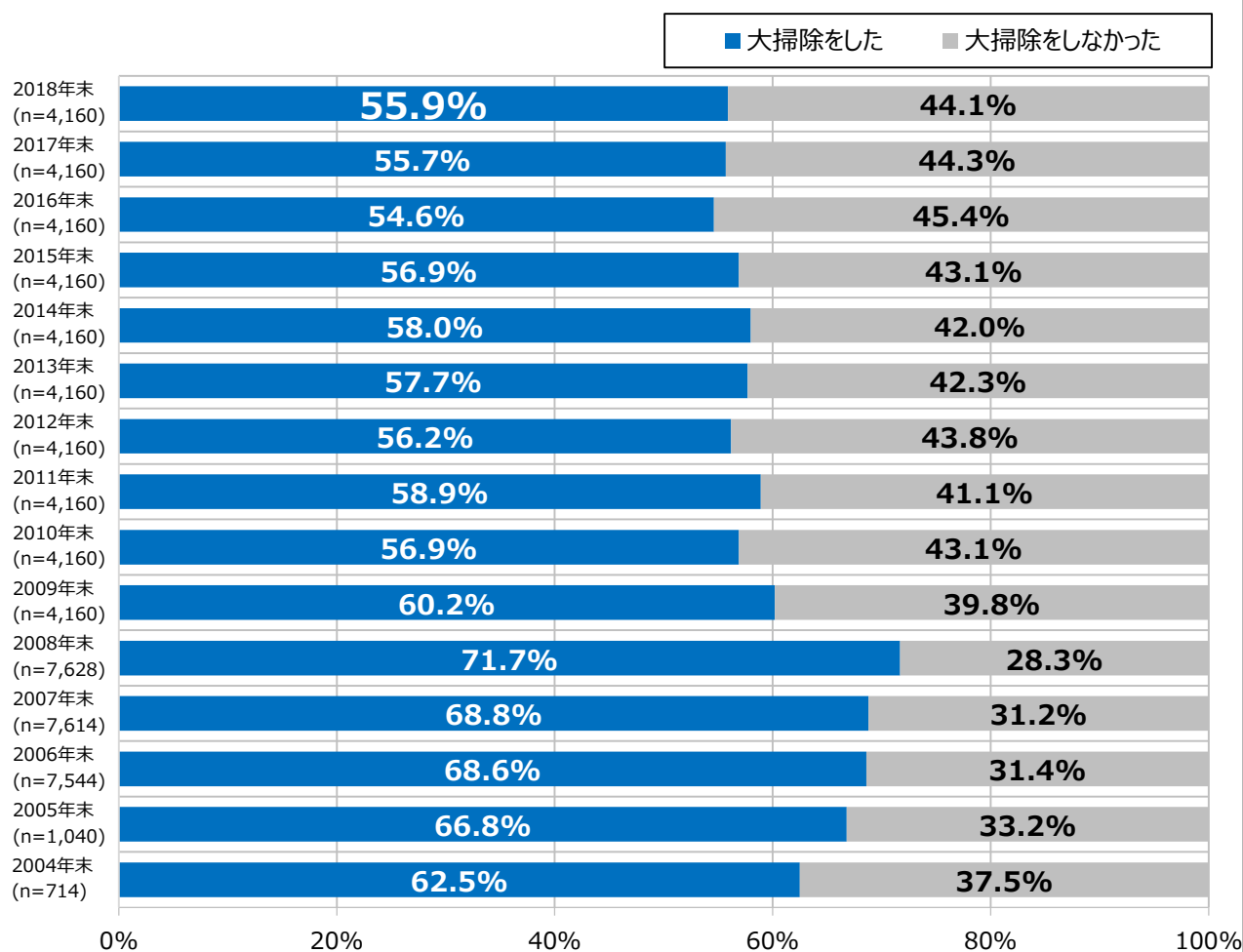
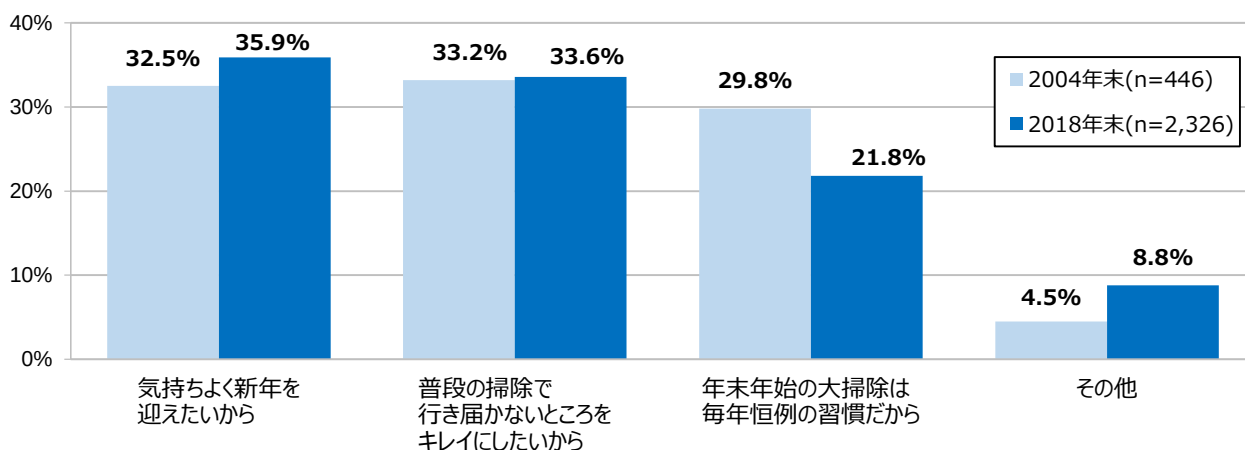


図2：大掃除をした理由



② 大掃除を実施した日、費やした日数と理由

- ・大掃除を実施した日は“年の瀬駆け込み”が多数派。
- ・大掃除日数は15年前と同様「2日間」が最多だが、「1日」は約2倍に伸長。大掃除は短期間化している。

2018年末の大掃除を実施した日を聞いたところ、「**12月29日(土)**」(**35.6%**)、「**12月30日(日)**」(**33.7%**)、「**12月28日(金)**」(**21.2%**)の順で多く、12月最終週で実施した人は6割を超えていました。**大掃除は“年の瀬駆け込み派”が多数派**といえます。

大掃除に費やした日数は、15年前と同様に「**2日**」(**27.6%**)が**最多**でした。しかし「1日」の割合をみると15年前と比べて約2倍に増え、1日だった理由の半数以上は「計画的に1日で実施した」でした。これらのことから、大掃除は確実に短期間化しているといえます。

図3：大掃除を実施した日(上位5日)

1位	12月29日(土)	35.6%
2位	12月30日(日)	33.7%
3位	12月28日(金)	21.2%
4位	12月31日(月)	15.0%
5位	12月27日(木)	13.8%

(2018年末に大掃除した人 n=2,326)

図4：大掃除に費やした日数(1～5日間)

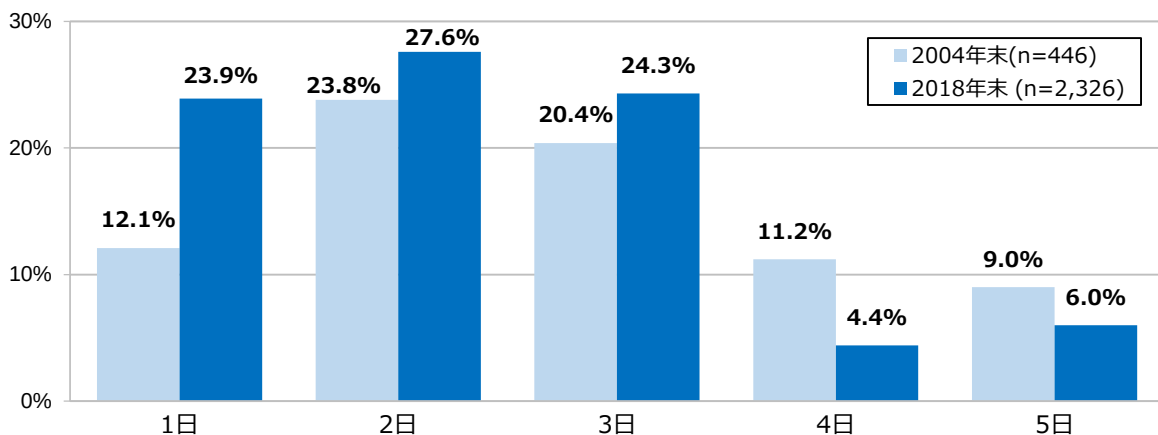
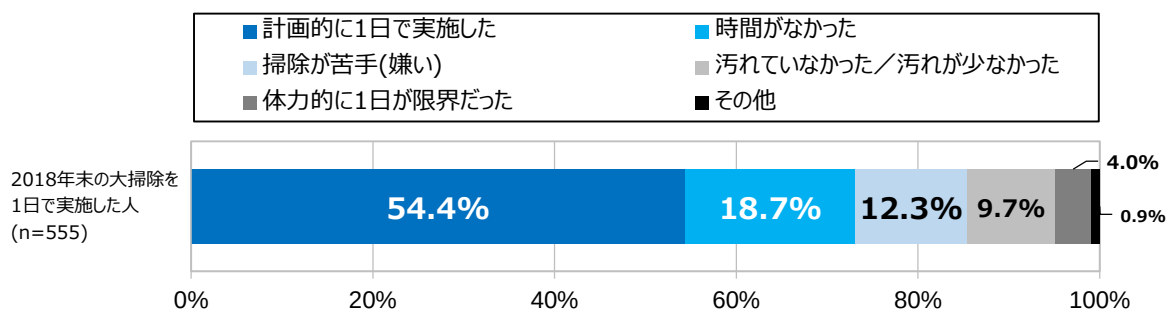


図5：大掃除に費やした日数が「1日」だった理由



③ 大掃除で最も苦戦した場所と対策

- ・10年連続“大掃除で苦戦する場所”の1位は「レンジフード・換気扇」。
- ・長年苦戦している場所は、プロに掃除を依頼するのが大掃除成功の鍵。

2010年（2009年末の大掃除が対象）から調査を開始した「大掃除で最も精力的に掃除する場所」、「最も汚れが落ちにくい場所」は、10年連続で「レンジフード・換気扇」が1位でした。大掃除においてレンジフード・換気扇の掃除は最大の悩みといえます。その影響もあってか、「レンジフード・換気扇の掃除をプロに依頼したい」人は51.9%にのびりました。

「レンジフード・換気扇」は高所にあり、内部の汚れに気づきにくいいためか、日頃はなかなか掃除がしにくい場所です。しかし油汚れを放っておくと酸化したり樹脂化してますます落としにくくなり、内部が汚れることで換気機能が低下し、室内の壁や床がべたついてしまうこともあることから、最低でも1年に1回は内部の汚れをしっかりと落とすことがオススメです。実際、2018年末にプロに掃除を依頼した人によると「自分ではできない場所の掃除ができた」ことに満足しているという結果もあります。過去の大掃除で苦戦していたという人は、今年こそプロに掃除を依頼してみてはいかがでしょうか。

図6：最も精力的に掃除した場所（上位5か所）

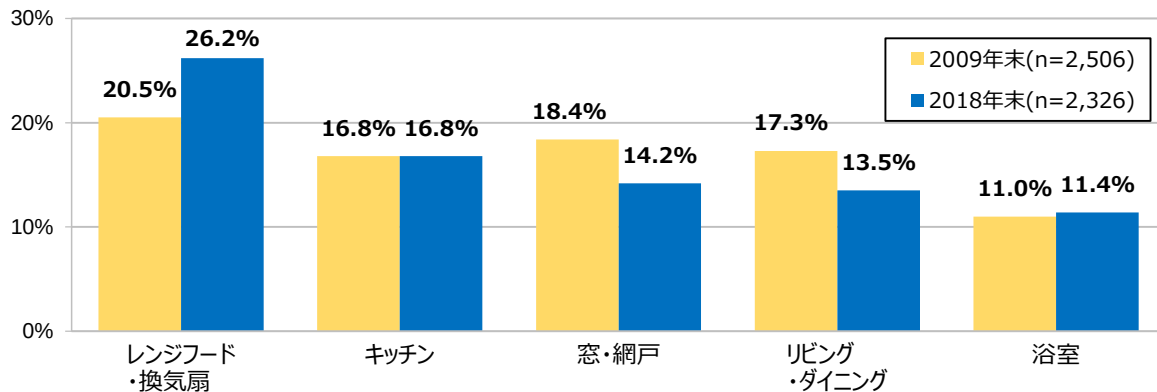


図7：最も汚れが落ちにくかった場所（上位5か所）

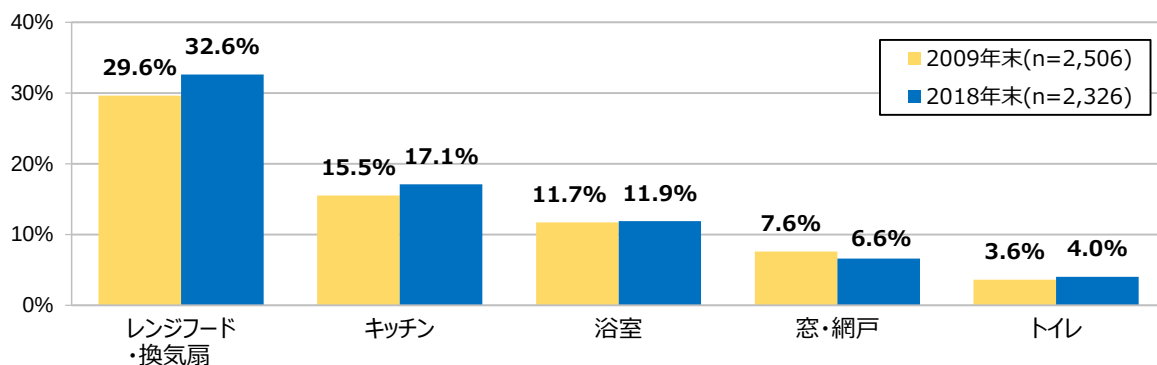
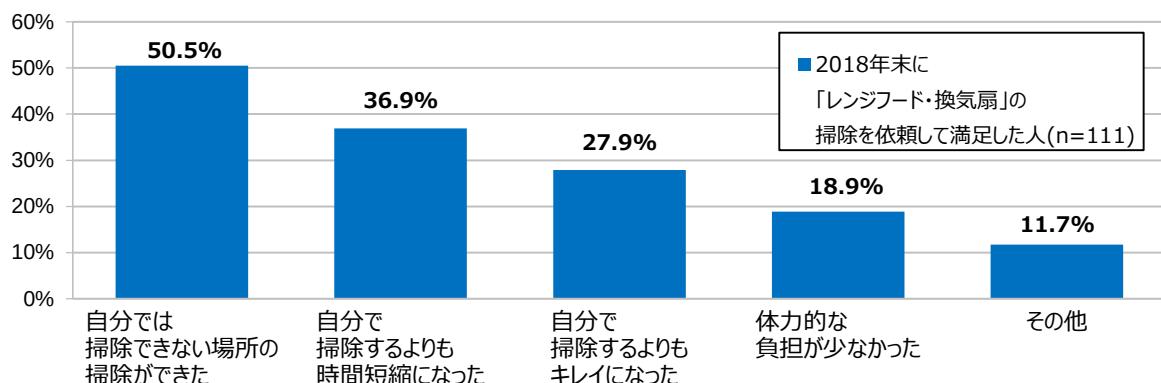


図8：プロに掃除を依頼して満足だった理由



④ 大掃除の情報収集と令和最初の大掃除の取り組み方

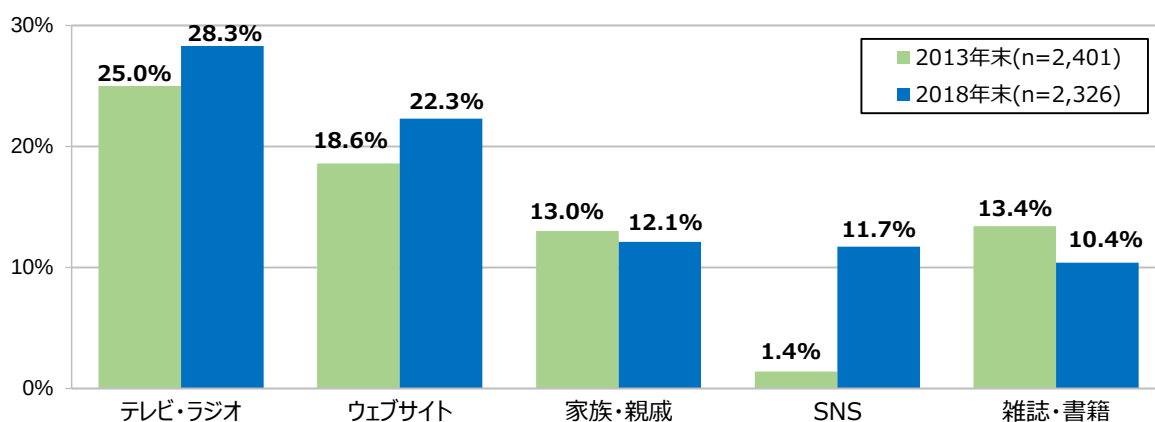
- ・SNSによる大掃除情報収集率、5年で約8倍に！
- ・「#令和最初の大掃除」は、自分の大掃除スタイルを見つけてみよう！

2018年末の大掃除の参考にした情報があるかを聞いたところ、「参考にした情報がある」と回答した人は5年前(2013年末の大掃除・47.6%)より増え、56.1%でした。**最も参考になった情報源は5年前と同様に「テレビ・ラジオ」でしたが、「SNS」はスマートフォンの普及やSNS利用者の増加なども影響したためか、5年前よりも約8倍に**増えました。スマホを片手に、掃除方法のおさらいや、投稿されたキレイなお家の写真を見て、掃除に対する士気を高めるのもオススメです。

大掃除の15年間の推移をみると、実施率こそ減少傾向にありますが、いまだに約半数の人が実施する年末恒例の習慣といえます。さらに「新年を気持ちよく迎えたいから」という実施理由からも見て取れるように、1年間の汚れを落とし、新しい年を迎える準備として、日本人にとって重要な行事といえます。日本の住宅環境の変化や掃除用具の進化、また共働き世帯の増加による家事労働の分担や代行サービスの利用など、掃除を取り巻く環境は日々変化しつつあります。しかし本来の大掃除の目的は昔と大きく変わってはいないと考えています。

2019年末は、新元号「令和」になってから初めての年末大掃除を迎えます。平成の間にやり残した場所を掃除するのも良し、最新の調査結果にあるような“短期間かつ短時間でコンパクトに済ませる大掃除“をするのも良いでしょう。ぜひ新しい時代に合う、自分らしい大掃除のスタイルを見つけてみてはいかがでしょうか。

図9：大掃除の情報源(上位5項目)



【調査概要】

- 調査目的 : 2018年末の大掃除についての意識・実態把握
- 調査対象 : 20歳以上の男女
- 調査地域 : 全国(エリア区分：北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州)
- 調査方法 : インターネットリサーチ
- 調査時期 : 2019年1月25日(金)～1月26日(土)
- サンプル数 : 4,160サンプル

※全データに対してn数30未満のものは参考値として記載